

年級

- 1 (西村(淺)居) 2 (大谷(日比)) 3 (松宮(那須)) 4 (北村(吉)保)
5 (山田(千)野) 6 (中(辻)孫) 7 (那(谷)須)

三年級

- 1 (森(大)平) 2 (山(須)本) 3 (小(岡)崎)
4 (山(佐藤)寛) 本(〇〇)

これより俱樂部の猛者連の物凄い試合に入る。「劍舞道場破り、」如何にも相應い名だ。五年級の「櫻」に對するに四年級の「梅」も面白い對稱だ。

先づX俱樂部と劍舞俱樂部との仕合より始る。

- 松宮 知田(龍)
北村(吉) 江川(崎)
X俱樂部(山田(千)〇) 劍舞俱樂部(小川(崎))
西村(淺)〇 姉崎
二橋

劍舞俱樂部先づ二點を占めたが戦ふこと數刻にして遂にエックス俱樂部勝つ。

次には猛者連の集り。激しい戦の跡を見よ。

- 道場破り 河村(今村(保)〇)
高橋(那須) 〇
藤村(岸) 〇
本(〇)

最後に五年級の雄と四年の壯士との肉迫戦に互ひに日頃鍛えに鍛えた腕の牙を表し鎬を削つて競ひ寸時の隙をも許さぬ緊張ぶり。

- 櫻俱樂部 青山(今村(保)〇)
羽根(那須) 〇
岩(佐) 〇
鹿(谷) 〇
泉(〇)

梅俱樂部遂に惜敗す。

こゝに本日の例會を終へた。皆日頃鍛えた腕前で張り切つた勇氣を一度に注いで雌雄を争ふ様は宛ら龍虎の雲を呼び雨を降らし空に嘯いて風を起すを想はしめた。終りに戦士諸君の熱烈なる奮闘を感謝し更に今後一層の練磨を望む。(奥村竹藏記)

第二十五回青年大演武會出演の記

待ちかねし七月二十五日、我が校友會諸兄の頭上には登校せねばならぬ日は愈今日を限りで楽しい暑中休暇が降りかゝつてゐる。そして我部選手達には彦中を背おつて武徳殿に出演せんとする期が迫つてゐるのである。

我々は花の四月より雨の日も、風の日も、暑き日も盛んに練習を續け来るべき演武會に於て天下の荒武者を向ふに廻し月の桂を手折らんものと、意氣込み勇んで互に技を磨いたのであつた。かくて七月二十四日眞野先生引率の下に午前七時四十二分の列車にて天下の槍舞臺を目指して金龜城下を立つた此の日驛頭に於ける應援團幹部諸氏並に團員諸君の熱列なる御後援は一同感銘の至である。一行は京都淡路屋に投宿することとなり、明日の戦を思ふて、英氣を養ふべく早く就寝した。明くれば二十五日、我等は目ざす武徳殿に行く途中熊野神社の近くにて我が野球部選手諸君と遭遇し、互に激ましつゝ別れたのであつた。

午前八時、開會式、終つて後打ち鳴らす太鼓の響と共に青春の血に燃ゆる青年の鐵腕奮ふ快闘の幕は切つ

ておとされたのである。中央には、總裁宮殿下の御在所あり、其の左右には審判官、記録係、外國人、婦人記者席等あり、續ける周圍には、天下の劍客居並び立錐の餘地もなし。早や勇ましい竹刀の音は聞え、若殿原の血はいやが上にも沸騰し漸次赤熱より白熱化され試合の番組も進行した。

西の方三十五回

岡山閑谷中

滋賀彦根中

となつた。

津島太郎

奥村竹藏

兩雄立ち立ちりて暫時沈黙し、鋭き一聲我れ先づ特意の「胴」をやれば、敵もさるもの發止と受けて、返す刀にて「胴」を以て報いたり。我受け止めれば、第二第三とやつて来る、何の小冠者奴と我れ猛進す、漸くにして審判一本勝負宣すれば互に勇氣百倍し打ち出す刃の激しさ、此の時「勝負あり」を宣せられ、我残念ながら小手を取られて退く。

東の方第五十二回

山口興風中

滋賀彦根中

久壽田慶一

鹿谷義雄

となつた。

我れ初陣なれども、何ぞ後れを取らんや、と氣こそ
勇め。前日より脇を害しをれば思ふにまかせず數會の
後胸を取られた。我奮つて胸を切り此處に勝負となつ
たが残念なる哉彼「面ッ」と叫んで打ち込む敵の大刀
受け損じて我遂に敗る。

西の方第七十八回

大阪市岡中

大原 重之

滋賀彦根中

近藤文雄(代理、羽根田)

近藤は今夏大津にて開かる、縣下中等學校の水泳大會
に水泳部の選手として出場することになる、依つて羽
根田選手代つて戦ふ。彼は我が胸迄位の小冠者なり。
二三合の後我二本とも胸を切つて勝つ。我軍意氣揚る

東の方七十九回

山口徳山中

佐藤 明

滋賀彦根中

岩 泉 清

兩虎の技伯仲にあり、彼最初攻撃に出で、我守備に
出づ、二三合の後敵先づ我が胸を斬る、我こゝに於て
攻撃に出で小手を取る。こゝに同格となりなは餘す一
本を秘術を盡してあらそふ、しばらくして敵の打ち込

む輕き面に勝敗決す。残念なる哉。四回を経て

東の方第八十四回

新瀨能生水産

杉林 浩爾

滋賀彦根中

二橋 五男

金龜の小龍一度雲を得て昇天し續けて面を斬つて勝
つ。

東の方第三百三十八回

兵庫柏原中

久 寶 眞

滋賀彦根中

羽根田 廣造

我が軍最後の試合なり、羽根田獨得の構に敵面喰ふ
敵よく戦ふも我の敵にあらず續けて胸を二本とりて勝
つ。

戦のあと

奥村(無)

二橋(二本)

鹿谷(一本)

近藤(代理羽根田)(二本)

岩 泉(一本)

羽根田(二本)

計八本各自平均13本なり

その次に本年我部は初めて對校試合に出でんとした
るが事故のため出演し得ず最も遺憾となす。

尙稽古中よく我等を教導せられたる先輩秋山、筒井

兩氏の厚意を深く感謝する。完、(十三年岩泉記)

大正十三年十月廿六日

滋賀縣教育會主催 第九回武道大會成績

長濱町小學校ニ於て舉行セラル

第一回 戦

○勝 ×負

彦中

八日市中學

×二橋 一男

岡部 傳藏○

×鹿谷 義雄

藥師 智孝○

×奥村 竹藏

圖司幸三郎○

×岩泉 清

野々村重藏○

○羽根田廣造

下川 治一○

第二回 戦

彦中

大津商業

×二 橋

川村喜代次○

○鹿 谷

望月 守×

×奥 村

岡本庄之進○

×岩 泉

矢尾 勝治○

○羽 根 田

小林 俊晴×

第三回 戦

彦中

滋賀師範

○二 橋

吉田 英二×

×鹿 谷

大辻子俊次○

○奥 村

田井中彦松×

×岩 泉

若杉 三之○

×羽 根 田

山崎 勇藏○

彦中

虎姫中學

○二 橋

橋本 貫瑞×

×鹿 谷

坂本與三松○

×奥 村

中川 哲夫○

×岩 泉

貴山 曉悟○

○羽 根 田

高松 曉照×

總得點 7。

本年度も亦武運拙く振はざりしは惜しむべし。在學
中の諸君よ乞ふ奮起されんことを。(羽根田記)

彦根高等商業學校

運動場竣工記念體育競技會出演の記

伊吹風の訪れる膚寒き拾一月廿三日彦根高等商業學
校主催、朝日新聞京都通信部支局後援の近府縣中等學
校の参加にかゝる體育競技會は其の日午前八時を期し

各部一齊に開かれたり。

依つて我部選手は來年度のチームを以て、あてんとしたるも都合により、本年度の選手を以て参加したり當日發表せられたる第一回戦は左の如し。

東之方

京都第一商業學校	神崎商業學校
京都第三中學校	同志社中學校
大垣商業學校	比叡山中學校
長濱農業學校	大津商業學校
膳所中學校	大谷中學校
栗太農業學校	立命館中學校

西之方

平安中學校	本校
彦根商業學校	滋賀師範學校
京都第二中學校	今津中學校
八幡商業學校	虎姫中學校
福井商業學校	彦根工業學校
大垣中學校	岐阜中學校

敵は平安の地に名を得しもの彼我出場選手左の如し。

水上部報

例年の如く本校創立記念日水上大運動會は、五月一日長曾根波止場附近に於て舉行せらるゝ豫定なりしも、この日天候險惡なりし故を以て順延せられ、翌二日午前十時、號砲一聲我が大會の幕は切り落されぬ

番外 第一選手獨漕 四分五十五秒

舵手 笠原 整調 藤堂 五番 森
四番 淺岡 三番 梅本 二番 若松
艇舳 伊吹

第一回 普通レース

赤堀川組	三
------	---

青岩泉組	二
------	---

白羽根田組	一	五分四十二秒
-------	---	--------

第二回 普通レース

赤岩佐組	三
------	---

青的場組	二
------	---

白高橋組	一	五分二十二秒
------	---	--------

第三回 普通レース

赤辻組	一	五分四十一秒
-----	---	--------

一二

平安

本校



我が先鋒となりて出でたる二橋は意氣盛なりしも敵に破られ、岡崎出で、先づ一本とりたるも敵續いて二本取る、岡崎選手の自重を望む。奥村出でて盛んに活動せしも効なくして敗る。岩泉美事なる「面」を取りしが我にせまり、猛りたつたる敵の爲に「面」、「胴」を取られて退く、殿をかためし羽根田が得意の「小手」を襲ふて先づ一本取る而も武運拙く續けて二本取られて敗れたり。

本年度の最後を飾るべき此の仕合に斯く無慘なる敗北を見たる我々は先輩諸氏並に校友會諸君に對して汗顔の至りなり。願はくば來年度の選手諸君よ我等の汚名を雪ぎ給へ。

K、i 生

青高森組	三
白塚本組	二
第四回 普通レース	
赤桑原組	二
青赤井組	一
白服部組	三
第五回 普通レース	
赤田中組	二
青山田組	一
白脇坂組	三
第六回 普通レース	
赤河村組	二
青村岸組	三
白長谷川組	一
第七回 普通レース	
赤西村組	一
青富田組	二
第八回 クラブレース	
赤ロツク三	

五分四十三秒

五分三十六秒

六分三秒

六分五秒

一三

青 多額納税 二
白 バイレト 一 五分二十四秒

第九回 クラブレース

赤 白 鳥 三

青 ジャコベン 二

白 UOA 一 六分十五秒

此の時に至り強風波の爲中止せられたり。同七日午
前九時三十分より再び開かれぬ。

第十回 クラブレース

赤 臥薪嘗膽 一 四分五十秒

青 衆議院 棄權

白 竹 及 二

第十一回 クラブレース

赤 豊 香 一 四分三十二秒

青 白 F D 二

第十二回 クラブレース

赤 TDR 一 四分三十三秒

青 琵琶 三

白 大正 二

第十三回 對部レース

赤 野球部 二

白 柔道部 一 四分四十二秒

第十四回 對部レース

赤 庭球部 一 四分五十四秒

白 劍道部 二

第十五回 寄宿舎レース

赤 南 寮 二 四分五十七秒

白 北 寮 一

第十六回 來賓レース

赤 高 商 A 二 四分三十四秒

白 高 商 B 一

第十七回 職員レース

赤 眞 野 組 二

青 東 林 組 三 五分十二秒

白 彦 中 會 一

第十八回 特選レース

赤 的 場 組 三 四分五十二秒

青 塚 本 組 一

白 田 中 組 二

第十九回 名譽レース

赤 高 橋 組 三

青 山 田 組 二 四分五十四秒

白 辻 組 一 四分四十三秒

〔高橋 竹村 上坊 西村 中山 尾本 中村
辻 山田 江龍 西川 大西 原田 中村 堀江
山田 猪田 本山 北川 岡崎 野村 堀江
辻 江龍 西川 大西 原田 中村 堀江〕

第二十回 二年クラスレース

赤 甲 組 一 四分五十六秒

青 乙 組 三 五分三秒

白 丙 組 二

〔前川 北村 兒玉 木村 織田 上田 漢見
藤居 瀧上 江龍 古川 清水 南城 古澤
中川 大西 江龍 古川 清水 南城 古澤〕

第二十一回 年級レース

赤 三年級 二 四分二十三秒

青 四年級 三 四分二十二秒

白 五年級 一 四分二十二秒

〔岡崎 富永 長谷川 奥川 本多 原田 田部
吉田 池田 大西 森 中山 西澤 西川
笠原 藤堂 森 浅岡 梅本 若松 伊吹〕

斯くして榮ある優勝旗は五年級選手に授けられ、午

後五時萬歳三唱の後解散せり。

奉公團水上大會出漕記

五月十八日我部は滋賀師範奉公團の招聘に應じ、大
津石場濱にて開かれし水上大運動會に参加せり。これ
ぞ本年度に於ける最初の遠征にして初陣の者亦多かり
き。

斯くして當日の敵手は新進の猛者大津商業B組と定
る。午後一時二艇は曳船によりて等しくスタートにつ
けり。此日たる絶好のボート日和にて湖上波靜かなり
號砲一發二艇は共に滑り出でたり。

赤 彦根中學 一コース 二着

白 大津商業 三コース 一着

百米二百米白除々に我に先んじや、優勢なりしも我
悠々迫らずこれを追ふ。三百米を過ぎて抜くべきは今
なりと舵手「此處五本」「此處十本」を叫べば、彼も
さる者、又呼應して力漕を續け接戦を重ねたり。然る
にミッドルを過ぐる頃我が疲勢甚だしく加ふるに艇に
不慣にして實力を發揮する能はず、彼これに乗じて依
然として優勢を示せり。九百米千米挽回すべしと必死
の猛漕を續けて敵に迫りしも時已に遅し。ラストヘビ

一も其効なく遂に三艇身の後に倒れたり。かくして期待せし初陣も敗戦となれり。校友諸君の御宥恕を乞ふのみ。

因に出漕選手左の如し。

舵手	笠原 和雄	整調	高森 治
五番	森 保三	四番	淺岡 勝榮
三番	梅本英太郎	二番	伊吹 慈徹
艇舳	本田 一男		(笠原記)

○堂島川出漕記

我部第一選手は五月二十五日大阪堂島川に於て開かれし關西漕艇俱樂部主催大阪毎日新聞社後援第三回端艇競漕大會に参加せり。

五月廿四日午後我選手大阪に着し高工艇を借り受けて練習せり。明くれば廿五日絶好のボート日和なり。斯くて第一豫選の敵は怨敵大津商業B組なりと。

九時四十分二艇はランチに曳かれてスタートに向へり。此頃満潮前なりしも我は最も不利なるコースなりき。俄然火蓋は切られたり。

赤	彦根中學	一コース	二着
白	大津商業	三コース	一着

は來れり。此の日たるや朝來風稍々強く波浪高し。我敵は同じ湖國の雄者膳所中學、八幡商業なり。

午前十時三艇は曳船に依りて波浪高き海上を或は上に或は下に搖られながらスタートにつけり。やがて一發の銃聲の下に三艇は快く海上を滑りぬ。

赤	八幡商業	三コース	一着	三分卅二秒
青	彦根中學	一コース	三着	
白	膳所中學	二コース	二着	

二百米に到るまで赤白共にビツチ早く我先んづること一艇身、されど我悠々迫らず敵に先導を許したり三百米四百米に於て三艇共に猛烈なる白熱戦を續けて一進一退す。ミッドルを過ぎて我艇速加はり白と並行す。赤依然として優勢なり。斯くて七百米に到りラストヘビー物凄く赤を抜かんとせしも時已におそし。コースは八百米なり。艇は波浪の爲動搖激しくゴールに入らんとして整調のストレッチャに故障生じ漕ぐ能はず、遂に白に先じられたり。嗚呼、斯くして名もなき敵に勝を譲り光輝ある我歴史を傷けたり。乞ふ校友諸君の御宥恕を。

因に出漕クルー左の如し

スタートにて白の滑り出しよく赤これに續く。二百米三百米彼我相呼應して接戦を續けしが、白稍々赤を抜けり。五百米なる大江橋下に來りし時我艇速頓に衰へ遂に一艇身先んぜられたり。かくて七百米に至るやラストヘビーを絶叫し猛然ビツチを揚げて肉迫せしも及ばず、二艇身の差を以てゴールに憤死せり。二戦二敗、何たる痛恨事ぞ、斯くして我が光輝ある彦根中水上部の名を汚せり。先輩諸兄及び校友諸君の御寛恕を乞ふ。

因に出漕選手左の如し。

舵手	笠原 和雄	整調	高森 治
五番	森 保三	四番	淺岡 勝榮
三番	梅本英太郎	二番	伊吹 慈徹
艇舳	本田 一男		(笠原記)

○堺ヶ濱出漕記

我部第一選手は六月一日須磨堺ヶ濱にて開かれし、神戸新聞社主催第十二回關西聯合競漕大會に参加せり。

五月卅一日午後我等は應援團諸君の萬歳の聲に送られて西征の途に上れり。此の日灘驛にて下車し神戸高商艇を借りて練習せり。明くれば六月一日愈決戦の日

舵手	笠原 和雄	整調	高森 治
五番	森 保三	四番	淺岡 勝榮
三番	梅本英太郎	二番	池田 潤三
艇舳	伊吹 慈徹		

○鹽津濱遠漕記

我部第一選手は七月中旬鹽津濱遠漕の壯舉を計畫せり七月十二日午前五時三十分我七雄は先輩三橋君のコーチの下に愛艇比叡號に乗じ長曾根波止場を出帆せり。此の日北風をよくと吹き波稍々高し。されど漕手は慣れたり何ぞ屈すべき。斯くて城山を後にして、數回のロングコースを引けば長濱右方に展開す。一同勇を鼓して力漕を續けやがて竹生島の東方に來れり。前方には賤ヶ岳聳に我を迎ふるが如し。又もや二本漕ロングにを以て變化なき兩山脈の間を艇は益々北進せり。やがて彼方に人家を望みて勇氣百倍、最後の力漕も見事に無事目的地鹽津濱に着せり。時に午前十時、あまりに早く到着せしを以て一同大いに喜ぶ。西山君に迎へられ九市旅館に投宿す。先輩横關君又來津され我等を激勵されたり。夜獵師村の散策を試み一同意氣軒昂たり。

明くれば十三日午前五時卅分波止場出帆竹生島に向ふ。京都藥專の和船周航隊又我等と共に出發す輝かしい朝日の光を帯びて艇を南へ進め、猛烈なる練習を終へて午前八時竹生島に到着す。一同上陸し都久夫須磨神社及び辨財天に詣で武運長久を祈れり。拜殿にて休息し絶景を賞す。又快ならずや。

かくて午前九時出發一舉長濱に向はんとす。此日たるや天氣晴朗絶好のボート日和なる。艇を東に進め、猛漕を重ねれば彦根模糊の中にあり。長濱又眼前に現れ最後の大ロングを以て無事豊公園に入れり。第二選手來演し我等を迎ふ。午後四時再び艇中の人となりて第二選手と共に歸彦せり。時に午後七時、かくして二日間渡る遠漕も無事終れり。果して益する處ありしや否や。

因に遠漕新クルー左の如し

舵手	笠原 和雄	整調	森 保三
五番	西川駒太郎	四番	梅本英太郎
三番	中山 新次	二番	森 藤次
艇艙	伊吹 慈徹	補缺	原田 富三

(笠原配)

○夏季練習之記

七月上旬飛報來る。曰く全國中等學校競漕會は例年の如く八月三日大津市石場濱にて舉行せらるる。

先に我部は各地に轉戦して敗れ且六月上旬に於て選手中に故障生じクルーに大變動を來せり。此處に於て我部は元氣旺盛なる新クルーを以て來るべき全國大會に必勝を期して練習せり。今や我等は鹽津濱遠漕の舉を終へ炎天下の猛練習を開始せり。かくて第二選手は組織せられ第一選手と共に呼應して日々百度の炎熱と戦ひ、或は磯山に多景島にロングコースを引き或は大鰲コースに於て競路の研究をなす等専ら準備怠りなし此の間にありて我部多數の先輩は日々來彦せられ、乗艇して選手を激勵し又親しく指導せられたり。其の他諸兄の内外種々御後援下されしは深く感謝する處なり斯くして我等は戰機の到るを待てり。

(第一選手舵手記)

○琵琶湖周航の記

我部第一選手は八月三日に開かるゝ全國中等學校競漕會に參加の爲七月二十五日より三日間の豫定にて琵琶湖一周大津に向はんとす。

廿五日 彦根——大溝

午前五時我等は池田部長及び先輩伊夫岐君同乗の下に愛艇比叡に身を託し長曾根艇庫を出發しぬ。熱誠なる先輩諸兄の勝たずば歸る事なかなれなど激勵の辞を後に遠漕第一日のオールは軽く入れられたり。向ふ處は對岸大溝なり。此の日南風強くすでに波浪高かりしも何ぞ屈せん。ロング二本漕を以て行くこと暫時にして多景島の左方に出づ。彦根はと願みれば早や模糊の中にあり。愈艇を西へ進むれば白石の屹立せるを望む。一同勇を鼓して猛漕すればすでにその右方に迫れり。嶋中に群る白鳥驚きてバツと飛びたちその奇また觀る可し。この頃に至り波浪愈高く艇中水にひたさる。されど勇敢なる我漕手は腕を練るべきは今ぞと力漕に力漕を重ねれば前方すでに西江洲の湖岸展開す。かくて最後のロング二十五分にて無事目的地大溝に着せり。時に午前十時半。定宿に入りて勞を慰む。午後三時、再び愛艇に乘じ大溝港を發して西約二十町の地に鎮座まします白鬚神社に參拜し武運長久を祈りて歸る。港の町を散策後、就寢。

廿六日 大溝——堅田

周行第二日は來る。種々の準備怠りなく大溝を發せしは午前七時なり。西岸に沿ひて南進すれば左に沖嶋八幡山の連々たるを望む。此の日空名残なく晴れ最高のボート日和なり。ロングを引けば艇はすでに大溝を離るゝこと數町小松に上陸して少憩す。一帶の長汀に數十人の漁夫罾網を引くも面白し。再び艇中の人となり力漕二本漕を以てすれば艇は名所近江舞子の稱ある雄松崎を訪ふ。眞に天下の絶景と稱すべし。時に午前十時半、此處にて中食を喫し休憩す。午後二時再び愛艇に乘じ一氣堅田に向はんとす。右に比良連山の疊々たるを望みて益々南進し數回の二本漕ロングを終へてホット一息つけば近江舞子の青松早や模糊の中にあり和邇川の岬を過ぐれば前方に堅田の浮御堂を見る。衆勇氣百倍最後の力漕を以てやがて堅田に着せり。午後三時。棧橋附近の旅館に投宿す。夜一浴の後浮御堂附近を散策して點々たる大津の燈火を見る。衆默然たれ共心中何物かを期せしならん。明日は愈大津入りなり

廿七日 堅田——大津

明くれば廿七日遠漕の最終日なり。午前七時浮御堂に別れを告げ大津に向つて出發す。此の日朝より微風

だになく暑氣激烈を極む。先づ二十分のロングを引けば艇は早や唐崎の老松を望むに到る。右方を眺むれば愛艇比叡の名のもとたる比叡の山聳え、南方はるかに大津の市街現る。一同勇氣百倍二十五分のロングを引きて遂に滋賀の都に入り。最後にめざましきへビーを以て周航の最後をかざれり。かくて無事艇を湖南汽船の波止場に繋ぐ時に午前十時なりき。

思へば壯なる哉此の周航！快なるかなわが思出！全三日間の遠漕も終へたり。果して益する所ありしや

○石場演出漕記

(第一選手舵手記)

第二十二回全國中等學校優勝競漕會は京都帝國大學々友會端艇部主催大阪朝日新聞社後援の下に八月三日大津市石場濱にて舉行せられ、我部第一第二選手之に參加せり。

八月三日早朝齋戒沐浴合宿前の縣社天孫神社に參拜後午前八時會場にて行はれし入場式に參列せり。

かくて第五回午前十時第一選手の起つ時は來れり。敵は共に日本海の覇者怒濤の中に腕を磨きし剛の者。三艇は曳船に依りスタートにつきぬ。此時湖上小波を立

て、又絶好のレース日和といふべし。突如號砲一發三艇等しくスタートを切れり。

緑 小濱中學 一コース 一着 五分十五秒

赤 彦根中學 二コース 二着

白 新潟中學 三コース 三着

スタートに於て緑白共に滑り出しよく我後るゝこと約一艇身。されど自信ある我は悠々之を追ふ。二百米三百米我除々に二艇に迫り接戦す。五百メートルを過ぎミッドルへビーを絶叫して緑を抜かんぞせしも彼もさる者急調を以て進む。白の艇速にぶると見るや八百メートルにて完全に白を抜き愈緑に迫りて艇差半艇身となる。此處に於て猛烈なる白熱戦は行はれ彼我相呼應して功漕を續けたり。かくて千メートル一舉に勝を制すべしとラストへビー物すごく突進せしが我には病軀未だ癒わざる二名の選手あり。到底實力を發揮し得ず最後の力漕も空しく一艇身の差にて惜敗せり。白我に後るゝこと三艇身餘。

第十一回午後〇時第二選手は第一選手の仇を報ず可く起てり。敵は當大會隨一の巨軀の所有者四國の雄たる宇和島中學第二選手なり。此の頃に至り比叡嵐し漸

く烈しく波浪高し。我選手は困難を感じたり。かくて二艇は白煙一發の下にスタートを切りぬ。

緑 宇和島中學第二 一コース 一着 五分二〇秒

赤 彦根中學 第二 二コース 二着

俄然最初より猛烈なる大接戦なり。一進一退容易に勝敗の豫斷を許さざりしが不幸にして波浪の爲思はぬ失敗を重ね、ラストの力漕もその効を奏せず尺寸の差を以て倒れたり。

嗚呼かくして自信ある本大會に於て校友諸君及び先輩諸兄の御期待に叛き無慘にも敗北せり。只々御宥恕を乞ふのみ。

因に出漕選手の左の如し

第一選手

舵手 笠原 和雄
整調 森 保三
五番 西川駒太郎
四番 梅本英太郎
三番 中山 新次
二番 森 藤次
艇軸 伊吹 慈徹

第二選手

舵手 北川四郎七
整調 池田 潤三
五番 本田 一男
四番 原田 富三
三番 奥川 鐵夷
二番 淺岡 勝榮
艇軸 吉田 諦成

第十五回午後二時我部先輩よりなる彦根實業團本校の柔道部の猛者連よりなる彦中ロッキ俱樂部及び和歌中俱樂部の來賓レース行はれたり。

緑 彦根實業團 一コース 一 五分四十四秒

赤 和中クラブ 二コース 二

白 ロッキクラブ三コース 三

ロッキクラブ練習不足及び艇に不慣の爲スタートより後れ緑、赤の接戦なり。遂にラストの力漕見事に緑の勝利となる。抑々ロッキクラブは選手應援の爲出漕せるものにして本校柔道部選手及び有志より成る。尙赤鬼クラブは種々故障の爲棄權せり。

因にメンバー左の如し

ロッキ俱樂部

彦根實業團

舵手 藤野 隆三
整調 堀川辰之助
五番 北川宗太郎
四番 西澤久一郎
三番 辻 富三
二番 種村 誠一
艇軸 若松文太郎

舵手 林 半四郎
整調 三橋 勝彦
五番 森居 嘉秀
四番 伊夫岐直一
三番 笹康 隆一
二番 西山 利員
一番 藤村助三郎

○慘敗史を顧みて

願みるに我部にとつて本年程不幸な年はありませんでした。初陣に於ては名もなき敵に敗れ、又大阪での敗、自信を持つた神戸での敗、實に申譯のない次第です。今度こそはと全國大會には必勝を期したのですが六月上旬重鎮といふべき四番淺岡病魔の爲に引退し其の他二三の選手が引續き引退したので甚だ困窮しました。此處で少壯な新クルーを組織し、さうして鹽津濱に遠漕し或は周航の壯圖に出づる等猛練習を重ねたのですが、何分短時日の爲練習不十分でした。尙大津で合宿中重鎮梅本、伊吹の二名不幸にして病床に臥し爲に補缺を入れるなとして練習に非常な支障を來しました。幸に大會には出場する事を得ましたが未だ全癒せず、到底實力を發揮するを得なかつたのは遺憾に思ひます。

又第二選手も専ら元氣を以て戦ひ自信は充分あつたのですが何分練習不足及び艇に不慣の爲惜敗しましたかくして本年度は全敗の憂目を見て、我光輝ある歴史を汚し諸君の御期待に叛きました。どうぞ吾等選手の胸中を察して御宥恕あらん事をお願いします。

第二回戦本校對北野中學 本校先攻

北中		中		北		敦商		敦商	
村岡	3	奥村	3	村岡	0	奥村	1	奥村	1
淺辻	0	淺辻	0	淺辻	0	淺辻	1	淺辻	1
藤本	0	藤本	0	藤本	0	藤本	0	藤本	0
岸村	0	岸村	0	岸村	0	岸村	1	岸村	1
橋本	0	橋本	0	橋本	0	橋本	3	橋本	3
青山	0	青山	0	青山	0	青山	0	青山	0
伊藤	2	伊藤	2	伊藤	0	伊藤	0	伊藤	0
藤村	5A	藤村	5A	藤村	4	藤村	6	藤村	6
合計		合計		合計		合計		合計	
4		4		4		6		6	

北中	26	中	25	北	26	敦商	15	敦商	15
南莊	4	井原	4	南莊	4	奥村	1	奥村	1
住井	3	瀬村	3	住井	3	淺辻	1	淺辻	1
河村	5	形村	5	河村	5	藤本	0	藤本	0
北尾	7	中村	7	北尾	7	岸村	1	岸村	1
三尾	8	谷野	8	三尾	8	青山	3	青山	3
一遊	0	天野	0	一遊	0	橋本	0	橋本	0
遊	3	打點	3	遊	3	伊藤	0	伊藤	0
遊	3	安打	3	遊	3	古澤	0	古澤	0
遊	3	三打	3	遊	3	古澤	0	古澤	0
遊	3	盜壘	3	遊	3	古澤	0	古澤	0
遊	3	失策	3	遊	3	古澤	0	古澤	0

本年二月廿七日 敦賀に遠征し敦商と戦ふ。戦績左の如し

最後に臨み先輩諸兄及び校友諸君が吾等を熱誠に御後援下さつた事を深く感謝します。(第一選手舵手記)

野球部報

昨年度は吾が部に多少の動搖ありしが學年末より新チームを組織し猛練習を始めたり。

●三月廿四日 美津濃運動具店主催關西聯合野球大會に参加す。戦績左の如し

第一回戦本校對郡山中學 本校先攻

郡中		中		郡中		郡中		郡中	
村岡	0	奥村	0	村岡	0	奥村	0	村岡	0
淺辻	3	淺辻	3	淺辻	3	淺辻	3	淺辻	3
藤本	0	藤本	0	藤本	0	藤本	0	藤本	0
岸村	0	岸村	0	岸村	0	岸村	0	岸村	0
橋本	0	橋本	0	橋本	0	橋本	0	橋本	0
青山	0	青山	0	青山	0	青山	0	青山	0
伊藤	1	伊藤	1	伊藤	1	伊藤	1	伊藤	1
藤村	2	藤村	2	藤村	2	藤村	2	藤村	2
合計		合計		合計		合計		合計	
12		12		12		12		12	

郡中	35	中	35	郡中	35	郡中	35	郡中	35
飼井	12	奥村	12	飼井	12	奥村	12	飼井	12
井村	6	淺辻	6	井村	6	淺辻	6	井村	6
兄弟	9	藤本	9	兄弟	9	藤本	9	兄弟	9
本岡	1	岸村	1	本岡	1	岸村	1	本岡	1
下本	1	橋本	1	下本	1	橋本	1	下本	1
河	1	青山	1	河	1	青山	1	河	1
松	1	伊藤	1	松	1	伊藤	1	松	1
二	1	藤村	1	二	1	藤村	1	二	1

五月十八日 京都遠征 本校對京都第一商業 京一商

一商		中		一商		一商		一商	
奥村	0	奥村	0	奥村	0	奥村	0	奥村	0
淺辻	1	淺辻	1	淺辻	1	淺辻	1	淺辻	1
藤本	0	藤本	0	藤本	0	藤本	0	藤本	0
岸村	0	岸村	0	岸村	0	岸村	0	岸村	0
橋本	0	橋本	0	橋本	0	橋本	0	橋本	0
青山	2	青山	2	青山	2	青山	2	青山	2
伊藤	4	伊藤	4	伊藤	4	伊藤	4	伊藤	4
藤村	0	藤村	0	藤村	0	藤村	0	藤村	0
合計		合計		合計		合計		合計	
4		4		4		4		4	

一商	26	中	26	一商	26	一商	26	一商	26
西澤	4	奥村	4	西澤	4	奥村	4	西澤	4
伊藤	3	淺辻	3	伊藤	3	淺辻	3	伊藤	3
小野	5	藤本	5	小野	5	藤本	5	小野	5
黒川	7	岸村	7	黒川	7	岸村	7	黒川	7
田本	8	橋本	8	田本	8	橋本	8	田本	8
曾花	0	青山	0	曾花	0	青山	0	曾花	0
三松	0	伊藤	0	三松	0	伊藤	0	三松	0
右一	3	藤村	3	右一	3	藤村	3	右一	3

本校對京一中戦 一中校庭に戦ふ。敵は前半に於いて守勢なりしも後半に於いて急に攻勢に出で十三對十二にて吾軍敗る。メンバー左の如し。

岐阜中學對本校 於岐阜中學校々庭
愛知一中對本校 於愛知一中校々庭
第八高等學校對本校 於八商校庭
戦へるものあり。

○京津野球大會戦記

吾部は今日あるを思ひ慶大の花形選手高木氏を聘し
炎熱焼くが如き日を物ともせず猛練習を重ねたり。
かくて七月廿四日優勝を期し多數の應援團員諸君の激
勵の辞を浴びて金龜城下を發し三高球場に行はれし豫
選戦に出演せり。戦績左の如し

本校對膳所中學校

本校先攻にて始まる

第一回表 奥村、辻三振村岸四球に出でしが藤本の投
匍に止む。裏 劈頭西田二遊間に安打を放つたが吉
井のバンド投飛となり西田又二壘に刺され宇野三振
に止む。(兩軍零)

第二回表 西村遊匍淺岡投匍伊藤二匍に振はず。裏
世森、小幡、竹川三者三振吾が投手藤本の怪腕そろ
く現はれ始める。(兩軍零)

第七回表 奥村遊匍失に出たが辻邪飛奥村二盜したが
捕手投好に死す村岸投匍に止む。裏 竹川四球に出
しが藤本投手の腕牙へ来るか西田(伸)宮本、禿三者
三振す。痛快至極

第八回表 劈頭から一球を藤本三側の安打をかつ飛は
し西村四球を利したが淺岡の遊匍、伊藤の投匍に二
者相次いで三壘に封殺、青山左前安打を飛ばしたが
左翼手の好投に淺岡本壘で憤死す。裏 西田三匍失
に出で吉井の四球宇野の好バンドに出で無死満壘と
なる敵の應援團躍氣となり「好機来れり」と叫聲の
半に世森左翼に大飛球を送つて左翼失に西田生還小
幡又絶好の犠打を放ち吉井生還此の時竹川の三振不
死を捕手一壘に暴投し宇野生還竹川二壘に死んだが
此の間に世森本壘に殺到した、三壘手の惡本投に生
還西田(伸)杉本又四球を利したが禿三振に漸く止む
此の回敵は打撃一巡一舉四點を回復し差一點なり。

(彦中〇、膳中四)

第九回表 古澤二遊間安打をかつ飛ばし出で奥村の痛
快な三壘打に古澤生還奥村敵投手に謀られて死す、
辻の投匍村岸の三振に止む。裏 西田二匍吉井三振

第三回表 青山投匍古澤三振奥村死球に出で辻の左側
の痛快無比二壘打に走者三二壘に據る、村岸又左側
二壘打をかつ飛し堂々二點を先取す。藤本三振應援
團熱狂す。裏 西田(伸)三振後杉本二匍失に出で禿
又二遊間に安打し好機を作つたが功を見ず。西田三
飛吉井三振。(彦中二、膳中零)

第四回表 西村三匍失に出でたが淺岡の遊匍に封殺さ
れ續く伊藤、青山三振淺岡殘壘。裏 宇野、世森共
に四球を利し小幡の投匍に重盜したが竹川西田(伸)
共に三振し再び好機を逸す。(兩軍零)

第五回表 古澤三振後奥村、辻共に三遊間に安打を放
ち村岸の投直後藤本の中左間を抜く絶好の快三壘打
をかつ飛し奥村、辻生還西村の三匍失に藤本又生還
西村二壘に刺されて止む、應援團狂喜す。裏(松本
退き宮本右翼に西田(伸)を左翼に)宮本三振禿遊匍
西田左飛に振はず。(彦中三、膳中〇)

第六回表 淺岡三振伊藤遊匍失に生きたが青山三振古
澤遊匍に伊藤封殺されて替る。裏 吉井、宇野共に
四球に出たが世森遊直に倒れ小幡又遊直に吉井二重
殺されて點を成さず。(兩軍〇)

宇野三飛に膳所軍萬事窮し降る。

膳所中學		膳所中學	
田井	野森	幡川	仲本
西吉	宇世	小竹	西田
遊三	捕投	二中	左右
			右左
			一

奥村	辻	村岸	本村	岡藤	青山	澤
中三	左	投	一	遊	捕	右二

膳中	30	4	14	8	1	2	0	0
本校	28	9	9	3	0	0	2	2

京津野球大會第一戦勝者戦

本校對京都三中 本校先攻にて

第一回表 奥村左前安打に出で續く辻遊越大三壘打を
かつ放ち奥村生還、村岸四球二盜し藤本投匍後西村
も亦四球を利し淺岡遊匍失壘手の本壘暴投に二者生
還、伊藤三振したが青山の三匍失に西村、淺岡生還
古澤の遊匍に青山封殺されて打者一巡し既に五點を
數ふ。

第三回表（敵は中堅井筒を投手に立て人見投手を退かせ中堅に備しむ）古澤四球を利し奥村三直重殺を喫す後辻左中間棚越の本壘打をかつ飛ばし悠々一點を回復し同點となる、村岸三振。裏山口三振後芝

第四回表 淺野三匁一失に出たが西村の投匁に封殺され淺岡又四球に出でたが伊藤の二直に西村重殺に止む。裏 中島飛遊牛窪三振、川勝投匁。(兩軍無爲)

第五回表 藤本の一飛後古澤四球に出たが奥村三飛辻三匁。裏 人見遊匁井筒三飛後橘谷左中間の三疊打山口四球を利せしが芝築地の二匁に入らず。(兩軍無爲)

第七回表 奥村遊匍後辻、村岸供に四球に出で淺野三匍に奥村封殺走者尙二三壘に據つたが西村の投匍に又チャンスを逸す。裏人見辟頭左中間三壘打を放

34	中	奥村
8	三	辻
10	左	村岸
9	投	藤本
0		淺野
5	一	西村
17	遊	淺岡
1	捕	伊藤
2	二	古澤
0		

第二勝者戰

火蓋を切る

第一回表 長谷川投匍島田左飛、八本遊匍。裏 奥村三振辻遊村岸死球に出たが藤本の三振に止む。(兩軍零)

第二回表 銅傳中飛後西村左側二壘打に出で坂出二盜に刺される間に本盜して生還一點を先取した。棚橋

中	田窪勝見筒谷口地村
三	島牛川人井橘山芝竹
二	投中投遊右左捕

（立命館一、彦中○）
第三回表 小西三匍失に出で三越安打に兩者進壘、長

谷川の遊匍に小西三進越守二壘に封殺、長谷川二盗し走者三二壘に據る島田左飛小西本壘を急いで死す裏奥村三振辻中飛後村岸遊越安打に出で二盗に刺さる。(兩軍〇)

第四回表 八木四球に出でたが銅傳、西村、坂田の三強打者を三振に屠つて我が彦中投手藤本の怪手漸く現る。裏藤本二遊間安打に出で西村の二匍に二進し淺岡次で三遊間に絶好の安打を放ち藤本生還、淺岡又三盗して伊藤三振後青山の捕匍に三本間に憤死す同點となり彦中應援團猛然なり。

第五回表 棚橋二遊間安打小西の三失に生き越守の犧打に二三進し長谷川の遊匍捕失に棚橋生還、次いで島田三遊間に安打し小西、長谷川生還、八木四球を利し銅傳左越二壘打を飛ばし嶋田生還、西村の三遊間安打に八木、銅傳相次いで生還、坂田中飛、棚橋遊飛に替つた。敵は此の回打撃一巡し一舉六點を占む。裏古澤一匍後奥村四球に出で藤本遊匍に又封殺せらる。(立命館六、彦中〇)

第六回表 小西二越安打に出でたが越守の遊匍に封殺され長谷川の三邪飛犧打となり越守二進したが島田

左飛にやむ。裏西村三壘安打に出でたが淺岡の遊匍に封殺せられ伊藤三振、淺岡又二盗に刺さる。

(兩軍零)

第七回表 (我が軍は投手藤本を右翼手に退せしめ淺野豫備投手を以て代らしむ) 八木遊飛銅傳三振後西村二遊間安打に出たが坂田の遊飛に止む。裏青山三匍後逸に出たが古澤三振奥村中飛辻遊飛に止む。

(兩軍零)

第八回表 棚橋中飛二壘打に出で小西の右前安打に生還、越守又左前に安打し走者三二壘に據つたが長谷川投飛八木遊飛止む。裏淺野三匍藤本捕邪飛西村右飛に振はす。(立命館一、彦中〇)

第九回表 銅傳死球に出で西村遊匍失に出で坂田遊匍失に出で棚橋右匍に坂田封殺、小西の三振に入らず裏淺岡一飛後伊藤二遊間安打に出たが青山の二匍に封殺、古澤の右前安打野手後逸に走者三二壘に據り奥村の三遊間安打に青山生還、棹尾の勇を揮つたが辻の中飛に終る。

奥村	辻	岸野	本村	岡藤	山澤
中三	左投	右	遊捕	右二	
川田	木傳	村田	橋西	守	
谷島	八銅	西坂	棚小	越	
立遊	一	中捕	投三	左右二	

本校 33 7 6 5 0 1 8 0

立命 38 11 4 4 2 4 5 3
數打振死打壘策打
打安三四犧盜失二

彦根體育俱樂部主催岐滋聯合野球大會

岐滋野球大會は例年の通り九月廿日より開始せらる我が部は先年の優勝校たる名譽を保持せんため九月上旬より猛練習を開始す。西村一壘手は不幸病魔に襲はれ出場すること能はず、橋本選手をして代らしめて参加す。

九月廿日 第一回戰 八日市中學對本校 於本校々庭 本校先攻

第一回 奥村辟頭より左翼三壘打に出で敵膽を寒からしめ續いて淺岡の遊匍惡投に奥村生還、淺岡二進村

岸の左翼二壘打藤本の中右間三壘打辻の遊匍一舉に淺岡、村岸、藤本生還し、好機なりしも後續三者三振に空し、されど一舉四點を得氣大に舉る。

圖司右飛中邑三振小管遊匍に空しく退く。

第二回 古澤中前安打奥村再度の左翼三壘打に生還せしも淺岡、村岸三振藤本の遊匍に空し。

井上三振堀田二飛竹村四球田中三振に無爲。

第三回 辻中飛橋本左前安打伊藤の投匍に二進せしも青山の遊匍に終る。

道端四球に出でしも中西の二匍に封殺圖示中邑凡打に終る。

第四回 古澤三振奥村中前安打淺岡中飛村岸左飛。

小管左中間三壘打を辟頭に放ち、續く井上の中前安打に生還し、井上二盗せんとして刺さる二者凡打。

第五回 三者凡打。三者凡退

第六回 伊藤三匍失に生きしも青山、古澤凡打奥村三振に空し。

圖司四球を利し中邑の投匍に二進三盗し、小管の二

岐中〇

第五回 古澤遊匍奥村二匍失に出でしも淺岡左飛村岸の安打辻の二飛に好機をいつす。

早崎三振伊藤死球に二盗し三浦の三振後淺野の右翼安打に生還、安田遊飛に空し。(彦中〇、岐中一)

第六回 藤本二匍失に二盗を企てしもならず伊藤の左飛橋本二匍失青山の遊飛に封殺さる。

高本投匍河田遊匍淺井一飛に已む。(兩軍〇)

第七回 古澤の中飛後奥村の二壘打淺岡左飛村岸四球を利し辻左越二壘打を飛ばし奥村、村岸生還、藤本遊匍に辻も生還、伊藤中堅へ安打せしが橋本の中飛に終る。

岐中無爲。(彦中三、岐中〇)

第八回 兩軍無爲。

第九回 淺岡左翼安打村岸の中前安打に生還、藤本遊飛に續く二者三振に空し。

河田遊匍失に生き淺井左前安打河田三壘による時早崎バンドを壘手へハンプルし河田生還、我軍萬事窮し涙を吞んで敵に降る。

庭球部報 (大正十三年度)

W E 記

昨冬橋本、竹原の兩氏を送りたる我が部は、伊吹の殘雪未だ鹿の子の如くなる、四月上旬と云ふに春季練習を開始せり。母校を愛する十餘名の選手は、新に迎へたる中川部長の熱心なる御教導と先輩諸兄の叱咤の聲に勵まされて猛練習をなしたり。

五月十日

本年度最初の小手調べにて近江帆布會社と戦ひ優退三組不戦二組と云ふ記録にて全勝せり。

●名古屋高等商業學校主催

全國中等學校庭球大會參加之記

我部選手脇阪、山田組は樂み待ち居りし終學旅行にも行かず、大會に出場せんがため猛練習をつゞけ五月十七日杉江部長代理に引率せられ目的地へと出發せり

第一回戰 (十八日)

尾張商業〇——三本 校

第二回戰 (同日)

名古屋鐵道學校〇——三本 校

第三回戰 (同日)

津島中學三——二本 校

かくして濃尾の雄、尾張商業を屠り、次で中京に驍名を馳せたる名古屋鐵道を難なく破り安堵の胸を撫づる暇もなく三回戰に於て斯界の雄、津島中學と見ゆる事となり、この時試合の勝敗如何と觀る者をして肩圖を吞ましめたり。戰は津嶋のサーブに始まり激戰數合敵まづ一ゲームを先んず。されど我よく守りて一ゲーム晚回しこゝに一大決戰を演じたが武運拙なくも敗る。噫無念！ 乞ふ諸兄の御寛恕を。

●六月廿九日岐阜遠征の記

我が部選手十名は試験中ながら應援團の激勵の聲に送られて遠征の途に付く。

戰績

岐中	本校	岐中	本校
上田三	植田	上田一	森崎
加藤三	植田	加藤一	森崎
下村二	森崎(優)	太田三	毛利
所野二	森崎(優)	牧野三	毛利
太田二	桑原	中路三	桑原
牧野二	桑原	中路三	桑原
中路二	脇阪	近藤三	脇阪
大竹二	脇阪	祖父江三	脇阪
近藤三	森崎	祖父江三	脇阪
祖父江三	山崎	祖父江三	脇阪
岐阜師範	本校	岐阜師範	本校
古野三	植田	古野三	毛利
大野三	植田	大野三	毛利
山田〇	脇阪	渡邊二	脇阪(優)
丹羽〇	脇阪	保母二	脇阪(優)
石谷二	桑原	竹内三	桑原
紅谷二	富田	勝三	富田

勝竹内 (優) 三 二
 山森 崎
 勝竹内 三 二
 山脇 田阪

●第四高等學校主催

夏練習に鍛へに鍛へし鐵腕もて北陸の猛者一蹴し第一學期の不成績を回復し以て校友諸兄に見みわんと、固き決心を以て七月廿五日金澤指して駒を進めぬ。されど悲しいかな吾が部選手は烈しき暑熱と夏季練習との爲その疲勞甚だしくして活動自由ならず遂に彦根工業のために勝をゆづれり。

●大每新聞社主催全國中等學校庭球大會

も歸へらしと心に誓ひたる我が部六名の選手は彦根驛頭歡呼の聲に送られ、數多の校友諸兄に擁せられつゝ、戦場さして出發せり。戦績左の如し

第一回戰

第二回戰

(一)

長	5	—	3
	2	—	4
	2	—	4
農	2	—	5
	5	—	2
	2	—	4
	2	—	4
	2	—	6

本校(山田、山崎)

かくして湖北の雄長濱農學を脇阪、桑原組の手を煩はすまでもなく一蹴し去り吾軍の士氣大いに振ふ。

第三回戰

吾部は第二學期より年來の軟球を廢して準硬球を使い先輩猪田氏のコーチのもとに熱心に練習せり。

同志社大學高商部主催

硬球使用の最初の大會には是非とも月桂冠を得て今までの敗辱の汚名を雪がんものと脇阪、桑原組は中川部長引率の下に遠征したるが武運拙く平和に誇る洛陽の地に敗れたり。

左に戦績を記し併せて校友諸君の應援を謝す。

7	—	5	
5	—	3	
住 4	—	0	本
吉 4	—	1	
中 4	—	1	
學 2	—	4	校
1	—	4	
4	—	1	
6	—	2	

●縣下中等學校硬式庭球大會參加の記

時は大正十三年九月廿八日、好球兒の血を湧かすべ
き庭球縣下大會は、滋賀師範學校コートに於て開催せ
られたり。一學期の敗戦の汚名を雪がすんば、死すと

(二)		(一)	
大	4 — 2	大	2 — 4
3 — 5	本	4 — 1	本
4 — 1	校	3 — 5	校
商	2 — 4	商	1 — 4
4 — 1	(森、	4 — 2	(山田、
4 — 1	知田)	3 — 5	山崎)
4 — 1		2 — 4	
4 — 2		0 — 4	
6 — 2		2 — 6	

(三)

大 商	I	——	4	本校 脇阪、 桑原
	2	——	4	
	1	——	4	
	I	——	4	
	2	——	4	
	0	——	4	
	0	——	6	

敵は第二回戰に於て斯界の雄八幡商業を撃ち敗りたる剛の者なり、されど吾軍始めより自重し第一回にて六十二にて敵を敗り、第二回に於て森、知田組よく戦ひ敵を窮境におちゐらしめしこと度々なりしが、運命

の神の差配により恨をのんで退く。第三回吾が脇阪、桑原組初めより敵を歴し六〇〇を以て凱歌を擧ぐ。長濱農學、大津商業を破りたる吾等は榮ある優勝戦に臨むを得たり。

最優勝戦 膳所中學二〇〇本校

(一)		本校(山田、山崎)	
膳	10	膳	8
中	2	中	4
	4		2
	4		6
	4		1
	4		1
	7		5
	6		2

(二)		本校(森、知田)	
膳	4	膳	2
中	4	中	2
	0		4
	2		4
	4		2
	1		4
	6		4
	5		3
	4		1
	6		3

あゝ戦は敗れぬ、榮ある月桂冠は徒に敵手に落ちぬ我等は恨をのんで雌伏し捲土重來以て大會に臨み校友諸君の期待を充さん事を誓へり。
附記 この戦は第一回、第二回ともに接戦數十合觀

三年級		二年級		一年級		五年級	
上平	池野	小野村	宮古	瀧中	前年	北村	塚岩
二	一	二	二	一	一	〇	二
末村	松井	藤谷	渡藤	内上	松安	宮内	赤渡
2	本	辻中	藤中	6	不戦三組	堀鹿	4
山島	二	村井	井供	木村		川谷	藤長
〇	〇	二	一	不勝		一	二
池木	田村	西阪	渡青			小藤	種辻
		村本	邊柳			菅林	村富

四年級		三年級		二年級		一年級	
伊川	花澤	名中	佐藤	廣田	栗須	大森	西口
吹口	二	二	二	二	二	二	二
高的	寺中	日比	山田	河吉	澤北	西口	分田
8	村	2	井	6	4	2	不
田保	二	二	二	三	中	長	村
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
羽根	桂	小神	柏宮	水西	上平	本長	谷部
田村	田村	澤取	淵村	川野	池野	多	

衆をして手に汗を握らしめたるが我が大將組出場出來ざりしため敗れたるの觀あり。これ作戦の拙なりしなり。終りに諸君の熱誠なる御後援を謝す。

庭球秋期例會の記

十一月五日より三日間秋期庭球例會を催す。時あたかも天高く馬肥ゆるの候而も二百餘人の應募者いづれも獨特の妙技を揮ひ頗る盛況なりき。

第一回戦 (三回ゲーム)

五年級		四年級	
奥村	二	居原	二
岩泉	一	米竹	〇
不戦十五組		藤澤	二
		川崎	一
		北川	二
		森	〇
		中浦	二
		伊淺	一
		藤岡	上村

二年級	1 野村 財村 一〇二	2 宮澤 川 二〇一	3 前川 々 二〇一	4 佐々 内上 片田 二〇一	5 屋敷 田 二〇一	6 和敷 田 二〇一
三年級	1 奥田 川部 二〇一	2 北平 村野 二〇一	3 池田 崎 二〇一	4 井田 原中 二〇一	5 佐藤 英 二〇一	6 林 英 二〇一
四年級	1 花澤 澤 二〇一	2 森村 保田 二〇一	3 西澤 澤 二〇一	4 高 場 二〇一	5 岩佐 本 二〇一	6 塚 本 二〇一
五年級	1 塚 本 二〇一	2 小藤 菅林 二〇一	3 岩佐 本 二〇一	4 宮内 岡 二〇一	5 高 場 二〇一	6 西澤 澤 二〇一

二年級	1 古宮 澤川 二〇一	2 藤木 村 二〇一	3 中村 破 二〇一	4 長谷川 塚 二〇一	5 不破 村 二〇一	6 中村 破 二〇一
三年級	1 古宮 澤川 二〇一	2 中村 破 二〇一	3 佐藤 英 二〇一	4 林 英 二〇一	5 岩佐 本 二〇一	6 塚 本 二〇一
四年級	1 古宮 澤川 二〇一	2 中村 破 二〇一	3 佐藤 英 二〇一	4 林 英 二〇一	5 岩佐 本 二〇一	6 塚 本 二〇一
五年級	1 古宮 澤川 二〇一	2 中村 破 二〇一	3 佐藤 英 二〇一	4 林 英 二〇一	5 岩佐 本 二〇一	6 塚 本 二〇一

二年級	1 奥田 川部 二〇一	2 北平 村野 二〇一	3 池田 崎 二〇一	4 井田 原中 二〇一	5 佐藤 英 二〇一	6 林 英 二〇一
三年級	1 奥田 川部 二〇一	2 北平 村野 二〇一	3 池田 崎 二〇一	4 井田 原中 二〇一	5 佐藤 英 二〇一	6 林 英 二〇一
四年級	1 奥田 川部 二〇一	2 北平 村野 二〇一	3 池田 崎 二〇一	4 井田 原中 二〇一	5 佐藤 英 二〇一	6 林 英 二〇一
五年級	1 奥田 川部 二〇一	2 北平 村野 二〇一	3 池田 崎 二〇一	4 井田 原中 二〇一	5 佐藤 英 二〇一	6 林 英 二〇一

二年級	1 古宮 澤川 二〇一	2 藤木 村 二〇一	3 中村 破 二〇一	4 長谷川 塚 二〇一	5 不破 村 二〇一	6 中村 破 二〇一
三年級	1 古宮 澤川 二〇一	2 中村 破 二〇一	3 佐藤 英 二〇一	4 林 英 二〇一	5 岩佐 本 二〇一	6 塚 本 二〇一
四年級	1 古宮 澤川 二〇一	2 中村 破 二〇一	3 佐藤 英 二〇一	4 林 英 二〇一	5 岩佐 本 二〇一	6 塚 本 二〇一
五年級	1 古宮 澤川 二〇一	2 中村 破 二〇一	3 佐藤 英 二〇一	4 林 英 二〇一	5 岩佐 本 二〇一	6 塚 本 二〇一

一年級
1 安松 本居 二〇一
2 和屋敷 田敷

第五回戦 (三回ゲーム)
1 安松 本居 二〇一
2 和屋敷 田敷

四年級
1 林英 藤 〇一
2 中村武 浦
3 堀江 二〇一
4 本島 山

三年級
1 堀江 二〇一
2 本島 山

五年級
1 岩佐 本 三二
2 高森 中村 三二
3 堀原 江
4 三年級
5 最優勝戦 (五回ゲーム)
6 古市先生 二二三
7 花月先生 中川先生
8 桃井先生 二二三
9 若山先生 二二三
10 東林先生 二二三
11 池田先生 二二三
12 長谷部先生 二二三

二年級
1 古宮 澤川 二〇一
2 安松 本居 二〇一

最優勝者氏名
五年級 塚本 佐組
四年級 中村武 組
三年級 佐藤 英組
二年級 古宮 澤川組

最後に中川部長より優勝者にメダルを授與して會を終りぬ。校友諸君多數の出演を多謝す。
●彦根高商主催
近縣中等學校硬式庭球大會參加之記
最後の華たるこの大會に出演して我校の名聲を四海に宣傳せんと練習に餘念なかりしが、急に豫定を變更し新チームをして之に出演せしめたり。
他校選手は皆舊選手の大將組のみなりしを以て遂に第二回戦に於て大垣商業のために六―二にて敗る。
諸君の御後援を謝す。

◎大正十三年の我部を顧みて
一三九

大正十三年度に於ける試合も彦根高商に開かれたる大會を以て名残多き終りを告げました。
回顧すれば春尚淺き四月から秋も暮んとする十一月に至るまで惨敗を以て一貫し幾度校友会諸兄の期待に反き熱誠なる後援に裏切つたでせう、吾等も熱心に練習しました。苦しい研究も重ねました。併し武運はあくまで吾等をしひたげそして惨敗を以て之に報ひ來たのです。
寛大なる諸君何卒選手の胸中を察し此敗戦を御容赦下さい。

大正十三年十二月

W、E

相撲部報

名を聞くに若人の血を湧かし肉を躍らせる我が相撲大會は今日九月廿七日赤鬼健兒の意氣の發露として演ぜられた。

天晴れ氣爽かにして此の雄壯比なき本大會を祝せんとするが如く、土の香新なる東延十六俵の上は砂盛して掃き清められ、四本柱は紅白の布もて蔽れ邊は幟幕を張りめぐらして準備全くとつてゐた。

生徒有志對片岡先生の模範取組數番を本日の千秋樂として城山の鐘が三時を告げる頃未曾有の盛況裡に全く終了したのであつた。

徒歩部報

藤本 吉一

京津日報主催陸上競技大會の記

夕陽西山に傾き鳥は時に歸るころまで部長及び竹内コーチャの指導のもとに練習に練習を續けた。

大會の日は來た。五月廿五日選手一同は躍る胸を抑へながら熱誠なる校友會應援團諸君に送られて午前六時九分發の汽車にて車上の人となり大津に着いた。

タイムの移るにしたがつて我々の戦ふべき時が來た當日の戦況左の如し。

百米	澤井 謙吉
二百米	竹腰 昇
四百米	同
八百米	藤本 吉一 一着 三點
一マイル	同 二着 二點
五マイル	宮内多喜雄 三着 六點

時に十時、清く淨く響き渡る拍子木の音と朗なる呼出しの聲に大會の幕は切つて落された。

必勝を踏む四股の響、快よい肉彈の火花、嵐と起る歡聲相錯綜して眞に天地震撼の偉觀に空飛ぶ鳥も濠に戯れる魚までも驚いた程だつた。

番組の進むにつれて益々眞剣味を加へ來り、三年級の取組の頃よりは素人相撲とは思はれぬ程の好取組もあり、見る者をして思はず汗握らせた。觀衆は十重二十重にとり捲いてゐた。この盛會裡に午前中のプログラムを終れた。

午後一時より再開五年級の普通取組十數番及び三人拔、五人拔があつた。流石は最高級丈けに元氣も溢るゝ許り、倒れては起き、起きては又倒れて砂のあんこる餅の如くなる迄に戦ひ、皆をして非常に頼もしく満足に感せしめた。續いて愈本日の大呼物たる二年級のクラス試合及び三年級以上の年級試合となつた。各クラスより選出した自慢の五人宛の強者、此處を先途と戦ひ、一般又手に汗して聲援に力め龍壤虎搏の壯觀を演出した。そして二年級乙組及び五年級は遂に名譽の勝者となつた。

八百米リール	藤本、竹腰、川崎、澤井 三着 一點
砲丸	西澤久一郎 二位 二點
圓盤	同 同 同
槍	村岸 誠一 同 同
投球	同 同 同
投げるに際し倒れて勝を譲つた	
走巾跳	脇阪 榮一 三位 一點
走高跳	同 同
立高跳	川崎 四郎 一位 三點
ホスデヤツブ	織田 誠一 三位 一點

我等はかくして吾々のベストを盡くし闘ひたれど滋賀師範をして名をなさしめ、吾が校は第三位を得たり深謝す諸君の御後援を。

●彦工と戦ふ

我々は京津日報の戦に破られ、連日校友会諸君の熱誠なる應援のもとに猛練習を重ね來る十一月の大會に必勝を期した。かくて金龜城下に彦工と闘ひは連戦連勝し彼をして亞然たらしめた。當日の戦況左の如し

百米	馬場 彦工
----	-------

敵は短距離に名を得たる八商又短距離に於てあなごりがたき彦商であつた。我れは短距離はいたつての短所であつたため彼等をして名をなさしめた。

- 一着 八商 阪口
- 二着 同 某
- 三着 彦商 某
- 四着 彦中 竹腰
- 五着 同 澤井

●彦商運動會參加

- 出場者 北村秀康、藤本吉一 二百米
- 戦況 一着 彦中 藤本吉一
- 二着 同工 馬場
- 三着 同中 北村秀康

●滋賀縣體育協會主催陸上大會之記

我が部は先きの日大津に於て滋賀師範に破れてから約半歳の星霜を金龜城下で猛練習を行ひ、大いに自信を得て十一月九日草津に戦つた。

戦の進むにつれて戦績良好であつたが残念な事には

●彦工運動會參加

出場者、竹腰昇、澤井謙吉 四百米

- 二百米 藤本 中 一着 十二秒五分四
- 長崎 工
- 竹腰 中 一着 廿八秒
- 四百米 馬場 工
- 澤井 中 一着 一分五秒
- 一哩 長崎 工
- 宮内 中 一着
- 立巾 長崎 工 二位
- 竹腰 中 一位
- 兒玉 中 三位
- 高木 工
- 瀧澤 工 一位
- 竹腰 中 一位
- 長崎 工
- 高木 工 同位にて落つ
- 竹腰 中 同
- 兒玉 中 同

神聖なるべき審査に誤あり、(我々から見るとそれは審査に誠意を缺いた爲の様に思はれた)我等は再三再四抗議を申込んだが聴かれず、遂に止むを得ず我等は棄權して歸た。唯諸君の熱誠なる御後援を謝するのみ

●高商主催近縣陸上大會の記

吾が部最後の戦なので必勝を期して十一月廿三日彦根高商主催近縣陸上競技大會に出場し怨敵滋賀師範、膳所中學、大津商業と戦事となつた。藤本、澤井、北村、織田の四名が出場したが残念な事には復もや滋賀師範にしてやられ吾等は第二位を得て敗れた。

御後援を謝す。

大正十三年拾月卅一日

●陸上大運動會の記

吾等が若き日の樂しみとして、最も渴望せし運動會は、時これ大正拾參年拾月卅一日の天長節を卜して、午前八時半から開かれたり。最初の全校生徒の合同體操は美事に終り、ついで年級レースの一部なるフイルド競技は曉々たる音楽につれて進行せり。勝利者左の

如し

- 第一回 二百米競走
- 一着 安部 三〇秒五二
- 二着 青柳 三〇秒五四
- 三着 澤田
- 一人こけたが勇敢に走る

- 第二回 二百米競走
- 一着 古澤 二五秒五四
- 二着 瀧上 二六秒
- 三着 江畑
- 第三回 六百米競走
- 一着 中村 一分五〇秒
- 二着 越後 一分五一秒
- 三着 鈴木

- 一週目は鈴木一着なりしも遂にラストで三着となる
- 第四回 六百米競走
- 一着 藤本 一分三五秒
- 二着 川崎
- 三着 澤村
- 柔道初段の種村一週半まで一着なりしも、こけかけ

て滑稽を演じて止む。

第五回 二人三脚

一着 宮川 三八秒五四

二着 辻村 三八 八五

三着 西堀田

一番は飛びぬけてゐる。

第六回 二人三脚

一着 目加田 三八秒

二着 前田

三着 黒田

第七回 二人三脚

一着 野村 三九秒五四

二着 大谷 四二秒五一

三着 古澤

第八回 二人三脚

一着 後藤 三七秒五一

二着 前松 三七秒五二

三着 岡居

第九回 二人三脚

一着 保坂 四二秒五二

二着 小林 四四秒五四

三着 前田

第十回 四百米競走

一着 羽根田 一分六秒五二

二着 奥村 一分八秒五一

三着 近藤 第拾壹回 四百米競走

一着 澤井 一分一秒五二

二着 辻

三着 西濱

第拾貳回 一分間競走

一着 久保田

二着 黒谷

三着 山本

第拾參回 一分間競走

一着 北村

二着 筒川

三着 野村

第拾四回 二百米競走

一着 竹腰 二六秒五分一

二着 藤本 二六秒五分二

三着 伊藏

第拾五回 二百米競走

一着 山口 二八秒五分四

二着 猪田

三着 三原

第拾六回 二百米競走

一着 田中 二八秒五分四

二着 高岡

三着 浅岡

第拾七回 二百米競走

一着 澤川 二九秒五分一

二着 西山

三着 小山

第拾八回 二百米競走

一着 富田 二八秒五分四

二着 馬淵 二九秒五分一

三着 郡田

第拾九回 二百米競走

一着 須山 二九秒

二着 森 二九秒五分一

三着 川村

第二拾回 戴囊競走

一着 野口 三六秒五分三

二着 川村 三七

三着 西村

第貳拾壹回 戴囊競走

一着 青柳 三五秒五分三

二着 岡村 三六

三着 田村

第貳拾貳回 八百米競走

- 一着 藤本 二分三秒五分二
- 二着 鈴木 二分三秒五分一
- 三着 竹林

第貳拾參回 一人一脚

- 一着 谷川 五七秒五分一
- 二着 谷川 一分二秒五分一
- 三着 成川

第貳拾四回 一人一脚

- 一着 廣瀬
- 二着 疋田
- 三着 大橋

第貳拾五回 二百米競走

- 一着 上林
- 二着 家森
- 三着 野口

第貳拾六回 二百米競走

- 一着 奥村
- 二着 北村秀
- 三着 不明

第貳拾七回 二百米競走

- 一着 奥村竹
- 二着 北川
- 三着 森

第貳拾八回

團體競争 一、二年 メジシソール行はる

第貳拾九回 百米競走

- 一着 浅岡 一三秒五分一
- 二着 藤本 一三秒五分二
- 三着 澤村

第參拾回 百米競走

- 一着 脇坂 一二秒五分二
- 二着 北村 一三秒五分三
- 三着 西澤

第參拾壹回 百米競走

- 一着 長谷川 十三秒五分二
- 二着 中島 十三秒五分三
- 三着 山口

第參拾貳回 百米競走

- 一着 富田 十三秒

二 服部 十三分五分一

三 山口 第參拾參回 百米競走

- 一着 奥村 十三秒

二 林 十三 五分四

三 野村 第參拾四回 百米競走

- 一着 藤本 十二秒五分二
- 二着 種村 十三 五分一
- 三着 脇阪

第參拾五回 マラソン競走

いよ／＼當日競技の花マラソンレースは來れり。名に負ふ彦中赤鬼健兒 スタートに整列せるもの當に四十名になん／＼とす。號砲一發、時に午前十一時五十分五分一、勇者いすれも榮ある勝利を得んものと觀衆の喝采に包まれて校門を出で、犬上川方面に去れり。午後〇時三十分場内によめき始め歡呼の内に宮内まづ勇姿を顯す。號砲一發月桂冠は彼が頭上に落ちたり。左の如し

一着 宮内多喜雄 四三分五七秒五分四

二 北村 光三 四六分廿八秒五分三

三 山口精一郎 四八分五一 五分一

四 竹林 彰

五 羽根田廣造

六 尾本 信藏

七 林 惣吉

八 若林展次郎

九 田井中好夫

十 澤田 新一

十一 天谷 靜界

十二 西濱 拾三

十三 疋田 芳夫

十四 富永志賀三

十五 西村 淺次

第卅六回 戴囊競走

一着 近 德 卅二秒五分四

二 岩 泉 卅三 五分一

三 天 方 第參拾七回 戴囊競走

一着 木 部 卅四秒